

◎ 53 地方港湾 厳島港（宮島口地区）みなとの賑わいづくり事業（前期） ◎

受賞機関 広島県 西部建設事務所 廿日市支所、広島県 土木建築局 都市計画課
 広島県 土木建築局 営繕課、廿日市市

キーワード 栈橋の統合・再編、景観形成、人とまちをつなぐ

全建賞審査委員会の評価ポイント

厳島港における港湾施設等とまちづくりの一体整備。コンペで選定したアイデアや地域特性などを踏まえ、グランドデザインを策定するなど、計画段階からまちづくりと一体化した整備計画を策定した点や、旅客ターミナル、連絡橋、広場等の設計を和風風景に統一するなど、景観においても事業間で連携を図った点が評価された。

1. はじめに

日本三景・世界文化遺産の宮島は、国内外で知名度が高く、年間450万人を超える観光客が訪れる国内有数の観光地である。この宮島の対岸に位置する宮島口地区を含む厳島港は、2019年の港湾統計において船舶乗降人員数が全国一の約940万人、入港船舶数も全国2位の約6万3千隻となっている。

一方で宮島口地区では、道路交通渋滞の悪化、待合スペースやトイレの不足、旅客誘導看板の乱立、民間栈橋の老朽化などの問題が顕在化し、宮島の玄関口としてふさわしい機能の確保が必要となった。これらの課題に対応するため、広島県は宮島口みなとまちづくり（厳島港宮島口地区港湾整備事業）を進めている。

2. 事業の概要

厳島港宮島口地区の課題と解決に向けた港湾整備事業の概要は、以下のとおりである。

- ①航路運航会社の個別の栈橋管理による各種の支障に対し、栈橋の統合・再編（大屋根付きの統合浮栈橋の新設、既設栈橋の再配置）を行った。
- ②旅客ターミナルの民間2社の運営による不便、施設の狭隘と老朽化に対し、旅客ターミナルを新設し、宮島とのつながりを意識した景観を形成した（宮島の旅客ターミナルとのデザインリンク、和の景観リ



2021年1月撮影
 宮島口整備状況

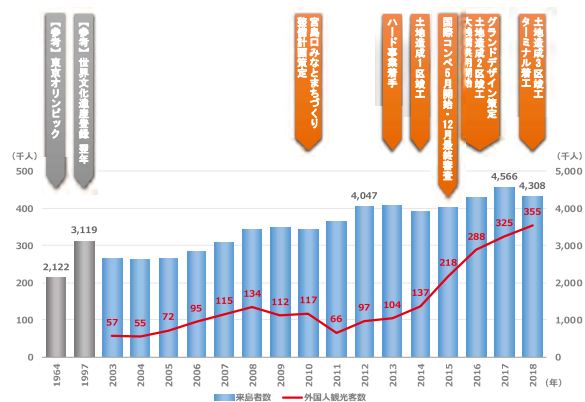
ソースの継承)。

- ③周辺に散策道や憩いの場がなく、通過だけの空間になっていることから、人とまちをつなぐターミナル構造（周辺エリアへの人の流れをつくる入れ子構造、賑わい活動拠点の確保）とした。

3. 事業の成果

港湾整備を進めるに当たっては、住民の生活交通の維持確保とともに、モンサンミッシェルとの姉妹提携など世界的に有名な観光地である「安芸の宮島」を目的とした多くの観光客の安全に配慮したアクセシビリティの向上を図った。

また、世界的なインバウンドのトレンドを背景に、外国人観光客の取り込みを進める地元自治体等のプロモーションと相乗効果を発揮し、外国人観光客数は2014年からの5年間で約3倍に急増した。



宮島の観光客数及び外国人観光客数の推移

4. おわりに

廿日市市では、同地区の回遊性の向上による賑わい創出、地域の一体感が生まれる景観形成等の魅力あるまちづくりを推進することとしており、現在も民間事業者による駅舎や駐車場等の整備が進められている。

昨年以降、観光客数は新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少しているが、終息後には再び国内外から多くの観光客を招き、満足して頂ける地域になることに期待している。

賛助会員 (株)荒谷建設コンサルタント、エム・エムブリッジ(株)、広成建設(株)、五洋建設(株)、山陽建設(株)、中電技術コンサルタント(株)、日立造船(株)、広電建設(株)、復建調査設計(株)、三井住友建設鉄構エンジニアリング(株)